

「ヘーテ。」

モムンが よびました。ヘーテは
びっくりして、モムンを見ました。

「いっしょに にげよう。」

「だって、くりの かわに ふたり

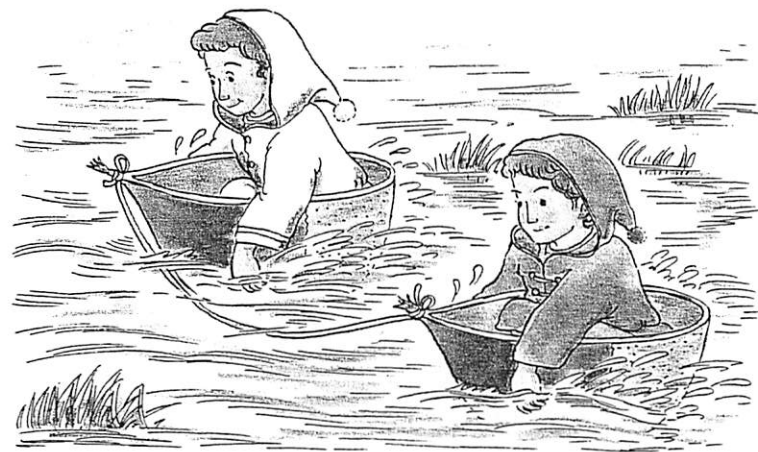
は のれないよ。」

「いや、にもつは すてるんだ。」

ふたつの くりの かわの ふね

は、こびとを ひとりずつ のせて、

木の ねを はなれて いきました。



II おにぎり

けんちゃんの おかあさんが びょう気で にゅういんして
から、もう 一か月 いじょうにも なります。

けんちゃんは、さびしいけれど、おとうさんと ふたりでく
らして います。おとうさんは、まいにち、かいしゃからか
えって くと、ごはんを つくったり、せんたくを したり、い
ままで おかあさんが していたしごとまで やって くれます。

あしたは えんそくです。けんちゃんは、

「あしたは えんそくだから、おべんとう つくってね。ぼく

の 大すきな たまごやきと、た
らこの おにぎりね。」

と いうと、おとうさんは、

「うん、だけど、たらこ かって
こなかったよ。ほかの ものでも
いいだろう。」

と いいます。けんちゃんは、

「いやだなあ。ぼく、さとしくんと
やくそく しちやっただもの。

ねえ、たらこ、かって きてよ。」

と、だだを こねました。おとうさ

んは、

「もう、おそいじゃ ないか。おみせは しまっちやっただよ。

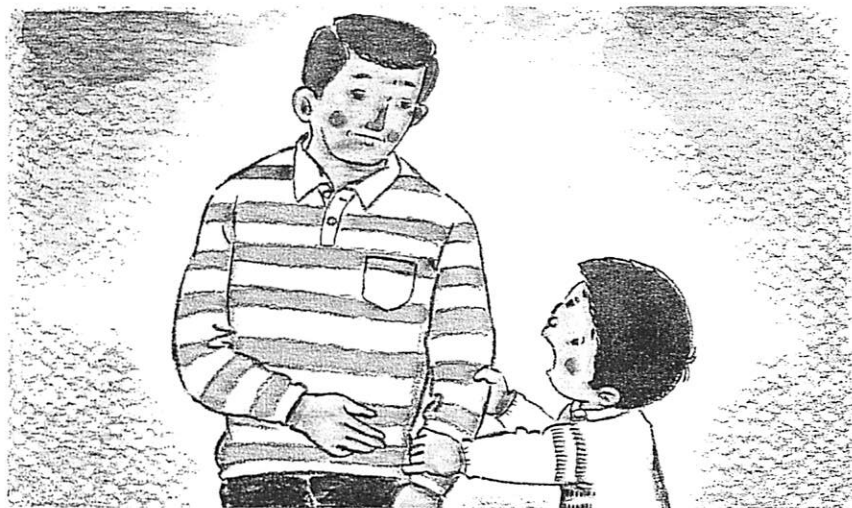
そんな わがまま いうんじゃない。おとうさんだって、ま
だ しごとか あるんだ。」

と いいました。けんちゃんは、とうとう なきだして しま
いました。おとうさんは、

「そんな ことで なくんじゃないよ。あしたは えんそくな
んだから、早く ねなさい。」

と、きつく いうと、くるりと うしろを むいて、しらべも
のを はじめました。

けんちゃんは、なきながら ねどこに はいりましたが、な



かなか ねむれませんでした。

「おとうさんの ばか。ぼくの こ
と なんか、ちつとも おもって
くれないで、じぶんの しごと
ばっかり して。かいに いって
くれたって いいじゃないか。」
そんな ことを おもいながら、
いつのまにか ねむって しまいま
した。

よく日は、とても よい 天気で
した。けんちゃんは、早く おきて えんそくの したくを

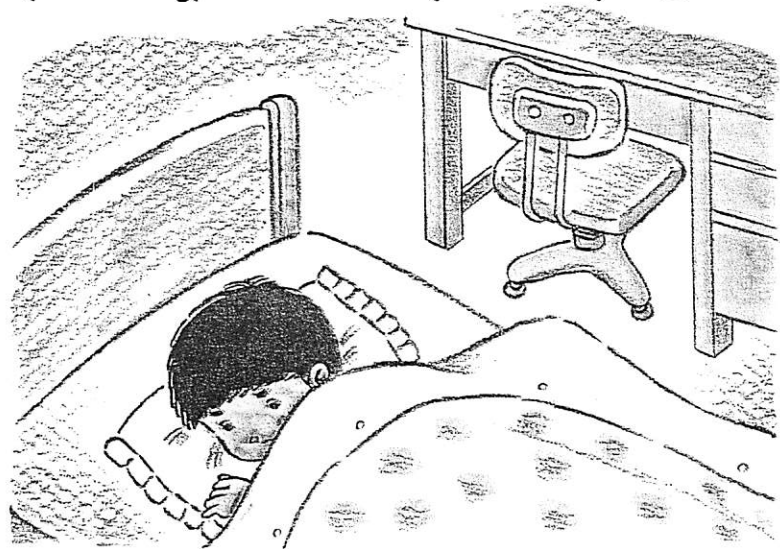
しました。おとうさんが つくって くれた おべんとうを
もって、げん気に いえを 出ました。

学校へ くと、みんな リュックを しょって、たのしそ
うに はなして いました。となりの 町の こうえんまで、
あるいて いくのです。

こうえんでは、ブランコに のったり、すべりだいで すべ
りっこしたり、みんなと たのしく あそびました。

ピリピリ、ピリーツ。

先生の ふえが なりました。おひるの おべんとうの じ
かんです。グループごとに かたまって、みんなは、うれしそ
うに おべんとうを ひろげました。きれいに かざった サ



ンドイッチや、かわいい おにぎり、おすしなど、どれもおいしいそうです。

けんちゃんは、みんなに見えないように、そっとおべんとうの つつみを ひらきました。のりを まいた 三かくのおにぎりが 三つ、ぎょうぎよく ならべて あります。そのよこには、あつやきの たまごやきが、おいしそうな いろをして ならんで います。「きれいに つくって くれたなあ。」と おもいながら、一つ とって、ぱくりと たべると、けんちゃんの 大すきな たらこが、はいつて いました。ゆうべは、「もう、うって ないよ。」と いていた たらこです。「あれから、おとうさんは、かいに いった くれたんだなあ。」

と おもうと、うれしくて、みんなによく 見えるように ひろげて、ぱくぱく たべました。



11 おにぎり

4-1(2) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをする。(家族愛)

1 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

核家族化が進行している昨今、子どもは、父親や母親と自分とのかかわりについて深く考えることなく生活している場合が多い。

また、現代の家族のあり方は個々様々で、互いに自己主張の強い家族は、お互いに思いやりをもって励まし合うことが少ない。子どもは自分の家族のあり方を肯定的に受けとめているので、個々様々な価値観を持っている。

どんな家族でも家族は互いにやさしく思いやり、感謝の気持ちをもつことが大切である。家族の心の絆こそ人間形成のうえで重要である。

〈子どもの実態について〉

子どもは、両親の愛情や家族のいつくしみを受けて育てられている。この時期の子どもはまだまだ両親に甘えたり、感情にまかせて無理を言ったりして親を困らせていることも多い。また、家族の思いやりを当然のことと思いこんでいる子どももいる。

このような子どもに、父母の愛情の深さに気

付き、感謝しようとする心情を育てたい。

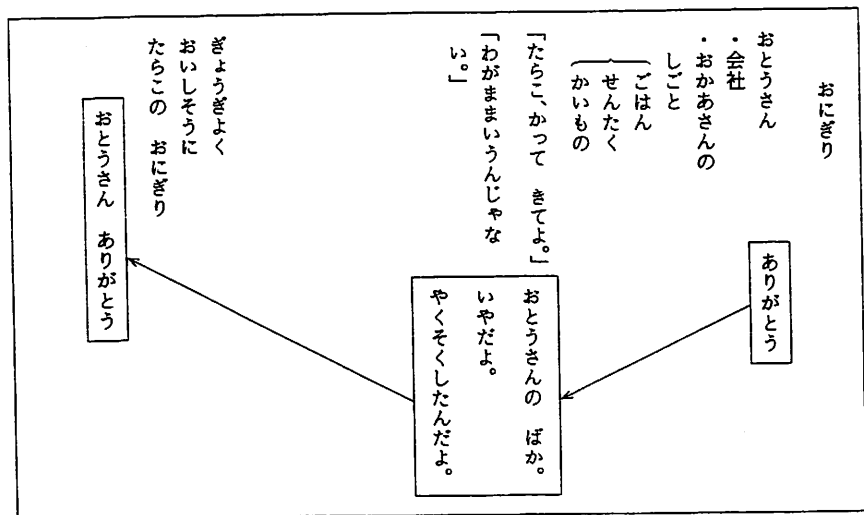
〈資料について〉

けんちゃんは、病気で入院している母のるすを父とふたりで守っている。ある日、遠足のお弁当は、どうしても、たらこのおにぎりではなればいやとだだをこね、お父さんにきつく叱られた。その夜は、お父さんととてもうらんだ。しかし、よく日、お弁当には、大好きなたらこのおにぎりがいっていて、お父さんに感謝するように誇らしげに食べた。

表面では、きつく言いながらも、大好きなおにぎりを作ってくれた父の愛情に深く感謝し、わがままな自分自身を素直に反省し、更に、強い親愛の情をもった主人公を通して、家族は互いに信頼し合うこと、両親の深い愛情には、素直に感謝しようとする心情を育てたい。更に、ささいなことでもぐれがちになる、親子家族の愛情をたしかなものにする基盤を育てたい。

2 ねらい

父母の思いやりに関心、明るく楽しい家庭にしようとする心情を育てる。



3 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 家族に何かしてもらって、うれしかった経験を発表する。</p> <p>○ 今までにうちの人にしてもらってうれしかったことがたくさんあると思いますが、それはどんなことですか。</p> <p>(2) 「おにぎり」を読んでけんちゃんのとった態度や気持ちについて話し合う。</p> <p>① けんちゃんは、どんな気持ちで「たらこ」のおにぎりをねだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大好きなおにぎりが、どうしてもほしい。 ・ さとしくと約束したから、約束を守りたい。 ・ お母さんだったら、たらこのおにぎりを作ってくれるはずだもの。 <p>② 「おとうさんのばか！」と思いながら眠ったけんちゃんは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんならしてくれるのに。お父さんは、ぼくのことを思っていない、きらいだ。 ・ 約束をやぶったら、何かいわれそうだ。困ったなあ。 <p>③ そっとひらいたお弁当を、みんなによく見えるようにひろげたとき、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さとしとの約束が守れていないと思っていたのに、きれいに作ってくれていたから、自慢したかった。 ・ お父さんのありがたさがわかって、うれしかった。 ・ お父さんありがとう。 ・ やっぱ、ぼくのお父さんだ。帰ったらあやまろう。 <p>(3) 自分たちの生活を見つめ、これからの自分を考える。</p> <p>○ けんちゃんのように、家の人に対して「ありがとう。」という気持ちをもったことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病気でねていたとき、看病してくれた。 ・ 誕生日に父がケーキを買ってきてくれた。 <p>(4) 本時のまとめをする。</p> <p>○ ある家族のお話をします。 (家族愛が、よく表われている子どもの作文など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族に大切にされたと感じた経験を思い出せるようにする。 ・ 会社から帰ってくると、母のする仕事までやっている父の愛情や苦勞に気付くようにする。 ・ 父への信頼が、自分の願いをかえてくれないというささいなことでもぐれしてしまったことを、十分に考えられるようにする。 ・ 自分の行為をすなおに反省し、さらに強い親愛の情をもてるようになったけんちゃんの変容に気付くことができるようにする。 ・ 自分の生活経験を思い出し、家族の深い愛情に関心、感謝する気持ちが大切であることを理解できるようにする。 ・ 身近な話で、家族の愛情にこたえようとする気持ちを深められるようにする。